

51

57

關東上陸地支局 昭和三十二年一月七日		史実調査参考資料報告 官古島独混六旅團三九七隊 官古島独混六旅團三九七隊 官古島独混六旅團三九七隊	所屬部隊 官古島独混六旅團三九七隊 官古島独混六旅團三九七隊 官古島独混六旅團三九七隊	支那軍変以 降了ル自 己略丁 昭和三十二年八月有独混六旅團三九七隊二階隊 全 百三官古島上陸 昭和三十二年八月十五日 昭和三十二年八月十五日 昭和三十二年八月十五日	所在部隊 編成年月日 及編制裝 備概要 二編或裝備概要 乙級編	所屬部隊 作戰經過 概要 昭和三十二年十月五日官古島上陸 官古島独混六旅團三九七隊 官古島独混六旅團三九七隊	終戦(又)主 力ノ戦斗終 了ノ後ノ状況 自任作業上從事	歸還(又)入連 終一先 其他ノ参 考事項	備考 呼核ニ記載スノ第一復員省史部ニ送付ス
				職ノ變更 及主ナル参 加戦斗名ヲ 記ス	最終所屬 部隊ヲ主 ニ尚ソノ 以テノ所屬 部隊ノ分ヲ 概記ス	歸還輸送 ノ状況ヲ 併記ス			

昭和三十二年一月七日
 關東上陸地支局
 史実調査参考資料報告
 官古島独混六旅團三九七隊
 官古島独混六旅團三九七隊
 官古島独混六旅團三九七隊

54

54

漢東上陸地支局 昭和二十一年三月七日		史実調査參考資料報告	摘 要
所屬部隊 獨立歩兵第三九七大隊 職 官 大隊附 中尉	全在所在地 沖繩縣宮古島 職 官 中尉	支那華軍以 降了於自 己之略厂 自昭和拾九年一月十六日 至同拾九年七月 滿洲警備 自昭和拾九年十月三十日 至昭和二十年三月三十日 天號作戰參加	終戰時ノモ ノヲ記ス
所在部隊 編成年月日 及編制裝 備ノ概要 乙 裝 備	昭和拾九年八月十五日	職ノ変更 及主ナル參 加戰鬥名ヲ 記ス	最長ノ 部隊ヲ 以テノ所屬 部隊ノ合ヲ 概記ス
所屬部隊 概要 自昭和拾九年十月三十日 至昭和二十年三月三十日 宮古島警備並ニ 天號作戰參加	終戰ノ又主 力ノ戰鬥終 了ノ後ノ狀況 自活作業	歸還輸送 ノ狀況ヲ 併記ス	歸還(又連 絡)先
其他ノ參 考事項 十	備考 呼核ニ記載スノ第一復員省史部ニ送付ス		

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十六日)

史実調査参考資料報告

所在地	南西諸島宮古島	職官	獨歩兵第三九七大隊長	摘要
所屬部隊	獨歩兵第三九七大隊	氏名	陸軍少佐	終戦時、モ 今記ス
支那事変以 降ニ於ケル 自己ノ略歴	昭一三七一任少尉歩兵第三大隊附 昭一三三六天 補盛岡陸軍予備士官學校生徒隊附 昭一八六六八 補歩兵第八方面軍歩兵部附南西諸島ハライニ 在リテ輸送業務ニ従事ス 昭和一八二二一 第四期丁種海軍士トシテ 陸軍入校。昭和一九七十一 補獨歩兵第三九七大隊長南西 諸島宮古島ニ在リテ同島防衛ニ任シ終戦ニ至ル	職、変更及 主ナル参加 戦ノ名ヲ記 ス		
所屬部隊 編成年月日 及編制装 備ノ概要	編成年月日 昭和十九年八月十五日 編成裝備 獨立混成第六十旅団ニ屬シ 大隊ハ本部、歩兵三ヶ中隊、MG、HA各 一ヶ中隊トス 中隊ハ三小隊約百二十名 MG八銃、HA二門、AT四門	最後、所屬 部隊ヲ主ニシ 尚其ノ以テ、 所屬部隊ノ 分ヲモ、概記ス		
所屬部隊 作戦経過 概要	獨歩兵第三九七大隊 牡丹江渡河ニ於テ 昭和十九年八月 十五日編成完結 翌十六日全地登陸 今九月十五日 釜山出発シ 途中敵潜水艇ノ襲撃ヲ避ケ、十月 三十日 宮古島到着上陸ス 上陸後 全島防衛ニ任シ晝夜ノ別ヲ分ケ 陣地構築等 行場修理 昭和二十年二月十六日 一、本年六月十五日 天 一予作新ニ至リ、八月十五日終戦ニ到ル	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス		
終戦又ハ主 力ノ戦ヲ終 了シタル状 況	現地自活(甘藷作り)及マリア村第二重兵ヲ 指向シ 終戦ノ翌朝、奉命撤収見現ニ勉ム 九月十月上旬ハ 食糧欠乏シ一日一ヶカローニ満タザル 日アリ、平均一ヶ五百カローヲ得、マリア村ニ依リ死 亡者(向接隊員ヲ含メ)三十名			
帰郷(又ハ 連絡)光	[Redacted]			
其他ノ参 考事項	大隊主力ハ宮古島ヲ引揚船(米船ウイラム トムソン号)ニ依リ進駐シ、補給ニ上陸ス 將校ハ第五号船(エトワードエハルト号)ニ依リ同右			

21

21

史実調査参考資料報告

中校

所在地	所属部隊	職官	摘要
沖繩縣宮古島	独立歩兵第三七六大隊	陸軍大尉 [Redacted]	終戦時、モ 今記ス
支那事変以前	昭和十二年七月七日 降ニ於ケル	滿洲事変勤務 官古島	職、変更及 主ナル参加 戦手名ヲ記 ス
所屬部隊	独立歩兵第三七六大隊	編成月日	最後所屬 部隊ヲ記ス
及編制案	編成月日	昭和九年八月十五日	尚其、以テ、 所屬部隊ノ 分ヲ概記ス
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
所屬部隊	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日
及編制案	獨立歩兵第三七六大隊	編成月日	昭和九年八月十五日

23

23

戰史資料

独立歩兵第三九七大隊 (南西諸島 宮古島)

調製官 独立歩兵第三九七大隊長 陸軍少佐 田島勇三郎

編成裝備關係

1. 部隊編成及兵器彈藥

独立混成第六旅團 (屈) 滿洲國牡丹江省夜河 (於昭和十九年

八月十五日變定) 結時總員六一二名

大隊本部

第一中隊 第二中隊 第三中隊 …… 指揮班 三ヶ小隊

機關銃中隊 重機銃隊 八

步兵砲中隊 四式小砲 二 九四式三七ミリ砲 四 電話機 六

彈藥 概不_レ入會戰分ヲ保有携リタリ。

右外黃色藥約一噸半ヲ補給セシタリ。

又終戦時迄職員表次ノ如シ

大隊長 少佐 津五郎 田島勇三郎

副官 大尉 尾上忠一

大隊附 大尉 矢持誠一

" 隊中尉 堀井五郎

" 主計少尉 鎌山博

第一中隊長 中尉 川村秀雄

中隊附 中尉 柴田夏澄

" " 三宅秀一

" " 横内信重

第二中隊長 大尉 石津宅美

中隊附 中尉 水出善助

" " 齋 松永熊次

" " 可久津 宏

第三中隊長 大尉 大友正一

中隊附 中尉 野正明和

" " 少尉 平本初也

機圍鏡中隊長 大尉 宗貫一

中隊附 中尉 德田義也

" " 少尉 山崎菊史

" " 召 小林正平

第四中隊長 中尉 山崎圭一

中隊附 中尉 川頭太郎

" " 少尉 黒沢 職

" " 召 大平金一

3. 人員兵器等、増減

宮古島上陸時、院及金山残置、為總員約五九。名減ス。

宮古島進駐間、主トテ又テ予ノ為、三三名、死亡者ヲ生セリ。

4. 現地住民便後、関係

主トテマシテ治水工事及陸上小輸送爲微用勞務若干ヲ
使用ス。

二、部隊履歴ノ概要

昭和十九年八月十五日滿洲國駐丹江省液河ニ於テ編成完結

同十六日出發釜山經由同年十月三十日旅團後發トシテ南西諸島

宮古島ニ上陸東地島一部ヲ擔任シ同島防衛ニ任シ終戦ニ到リ。

三、指揮鍊索關係

独立混成第六旅團ニ隷屬シ變化ナシ

四、作戰準備關係

別紙要圖ノ如シ。

五、戰鬥狀況

一、參加重要工作戰 天一号作戰

二、機動部隊未襲狀況

昭和十九年十月十日南西空襲以後陸中艦隊終了ニ連日敵機

乃至三三百機ノ空襲アリ。

昭和二十年四月一日我艦以下約十隻、機動部隊未襲、主トシテ

飛行場附近ニ對シ艦砲射撃約三〇〇發ヲ實施ス

三、敵機損害、不時着數量不明

六、給養、衛生

昭和二十年七月中旬迄 未末 日量 六〇〇グラム

八九十月 未末 日量 約 三〇〇グラム

給養、低下に伴ヒ加ヒ六月月初旬陣地ヲ移動スル爲マリア、患者續發

シ約二五〇名、患者ヲ生ゼリ。

七、終戦ノ歸還途ノ行動ノ概要

終戦後、詔書ヲ奉ルニ自決タシマシテ對策ニ重責ヲ指向シ体力

氣力ノ回復ヲ圖シ。

不單航上事來ヲ生ゼズ、機未整齊ニ歸還ヲ實施シ得タリ。

十二月六日宮古島落葉ヲ以テ輸送船(東船)ヲ用テトムシテ(一依リ)